

原子力規制委員会記者会見録

- 日時：令和5年1月18日（水）14:30～
- 場所：原子力規制委員会庁舎 13階B・C・D会議室
- 対応：山中委員長

<質疑応答>

○司会 それでは定刻になりましたので、ただいまから1月18日の原子力規制委員会定例会見を始めます。

皆様からの質問をお受けします。いつものとおり、所属とお名前をおっしゃってから質問をお願いいたします。質問のある方は手を挙げてください。

タシマさん。

○記者 共同通信のタシマと申します。よろしく願いいたします。

今日の会合の議題1についてお伺いいたします。

事務局の説明の後に、山中委員長から先日のエネ庁とのやり取りについて、その独立性、透明性に関して課題があったということでお話があって、その中期目標なり年度計画なりに載せるべきというお話がありました。改めて、そういったものに明文化して載せるということの意義、狙いをお願いいたします。

○山中委員長 やはり、ここ3か月の様々な議論を踏まえますと、やはり独立性に問題はなかったものの、透明性に問題があったという委員の皆さんの御意見、私もそういう意見を持っておりましたので、やはりそれをきちんと明文化していただくと。せっかくその中期目標の改正を行うわけですから、その辺りをきちんと入れていただくということが必要かなと思ひまして、あえて発言をしました。

○記者 あえて委員会のほうの目標に示すことで、昨年末の委員会のほうでは片山長官から、職員のほうにもそういった透明性ですとか徹底させるという発言があって、規則を設けるという話もありました。職員向けの規則だけで、明示するだけでは不十分ということでしょうか。

○山中委員長 もちろん我々委員会のガバナンスが、何か劣化していたとは思いませんけれども、やはり、きちんと委員会としても、責任を持って今後その透明性を高めていく、疑義が生じないように進めていくということが必要だと思ひましたので、私はあえて何か一言ないしは文章を付け加えてほしいという、そういう意見を申しました。委員からも賛同する意見出ましたので、また改正案が出てくるかと思ひますし、また議論していきたいと思ひます。

○記者 ありがとうございます。

すみません、あと別件で、先ほど東電の旧経営陣に対する刑事裁判の控訴審判決で無罪判決という結果が出ました。ちょっと改めてもし何かコメントがあれば、よろしくお

願いたします。

○山中委員長 私ども原子力規制委員会が直接関わっている裁判でもございませんし、コメントすることは差し控えたいと思います。

○記者 ありがとうございます。

○司会 ほかに御質問いかがでしょうか。

ヨシノさん。

○記者 テレビ朝日のヨシノです。よろしくお願いします。

先ほど、委員長が来週末に柏崎刈羽に入られるという、一応規制庁から発表があったのですけれども、こちらの狙いについてお願いします。

○山中委員長 柏崎刈羽原子力発電所につきましては、昨年の1月に私自身、視察・現地調査に行っております。そのときも入退室管理の状況等を見ておりましたのですけれども、今回は特にですね、厳しい季節の期間の中に核物質防護に係る施設、あるいはその取組を直接見てみたいという希望もございまして、急な話ではございますけれども、来週末、直接私自身が行くことにいたしました。

当然2月には、また委員の皆さん、何人か行かれることになろうかと思っておりますけれども、事前に核物質防護関連の施設設備、取組を自身で見ておくということが必ず必要かなというふうに私も感じて、これまでおりましたので、柏崎刈羽発電所については、何度もこれまで視察あるいは現地調査しているのですけれども、改めてこの時期に行かせていただくということで、来週ということになりました。

○記者 ありがとうございます。それと今後のスケジュール感と申しますか、恐らくその年度をまたいだあたりか、ちょっとよく分からないのですけれども、是正措置命令についての、また一定のさらに判断をしていかなければならないと思うのですけれども、それに際してはまた現地視察をされるというふうな認識でいるのですけど、それはそれでよろしいのでしょうか。

○山中委員長 私の視察あるいは現地調査、改めて必要であればもう一度行かせていただくこともあろうかと思っておりますけど、まずは委員、委員長、全員がまず現場を見るということ、これが必要かなということを考えています。

その上で追加検査の報告書、東京電力からの報告書が出てきた上で最終的な判断をするということになろうかと思っております。時期的にはこれまでお話をしてきた時期とそんなに大きな今変化があるとは思っておりません。

また、公開の委員会についても近々開きたいというふうに希望しております。

○司会 ほかに御質問いかがでしょうか。

ヤマダさん。

○記者 新潟日報のヤマダです。

柏崎刈羽、関連でもありますが、柏崎刈羽原発に委員長が視察、いらっしゃるということで、特にどういったところに関心を持って見たいと、今、核物質防護の関連施設というふうなことでしたけれども、その中でも何か具体的に、迷惑警報の数だとか、いろいろポイントがあろうかと思いますが、どういったポイントに絞って、そういうふうに見たい、今回の視察では御覧になりたいと思っていらっしゃるのでしょうか。

○山中委員長 極めて厳しい季節環境でございますので、それに関係する核物質防護の設備等を視察したいというふうに考えています。また、組織的な様々な取組をなされておりますので、防護本部の様子等も直接見てみたいというふうに思っております。

○記者 ありがとうございます。同じKK(柏崎刈羽原子力発電所)関連なのですが、今週、出火がまたあったと、ノートパソコンから火が出たという、ちょっと余り聞いたことのない事例なのですが、そうした報告はどのようにこちらに受けていて、その受け止めもお願いいたします。

○山中委員長 様々な小さなトラブルの報告ございます。個別には原子力の安全に関わるものではないかと思っておりますけれども、やはりそういう小さなトラブルが生じないような職場環境をきちんとつくっていただくということも、電力会社としてはやはり取り組んでいただきたいことの一つかなというふうに思っております。直接原子力の安全には関わりませんが、受け止めとしてはそのように思っております。

○記者 ありがとうございます。

○司会 ほかに御質問いかがでしょうか。

キリュウさん。

○記者 河北新報社のキリュウです。

先ほど共同さんからあったのですが、東電の旧経営陣の今日判決出たということで、多分、委員長として、判決自体について多分コメントできることはないとは思いますが、一方で、津波を予見できたのか、事故を防げなかったのかという点において、規制委員会として、その教訓にしなければいけないことというのはあると思うのですが、その辺り、委員長としてどのようにお感じになっているか、お願いできますでしょうか。

○山中委員長 裁判に対する直接のコメントは差し控えさせていただきますけれども、やはり東京電力福島第一原子力発電所の事故の教訓というのは、やはり継続的な安全性向上、これを怠ってはいけないということでございますので、これについては原子力規制委員会自身も強く、これからも忘れることのないように行動していきたいというふうに思っています。

○司会 ほかに御質問いかがでしょうか。

それでは、本日の会見は以上としたいと思います。ありがとうございました。

- 了 -